

# 株式会社東芝

## 東芝グループ 150 万本の森づくり

「地球内企業として信頼される、企業グループへ」をキーワードに、(株)東芝ではCSR活動を推進しており、なかでも自然環境保護と科学教育支援を二本柱に社会貢献活動を展開しています。

自然環境保護活動として2006年度以降取り組んでいるのが、創業150年を迎える2025年に向けて、国内外で150万本規模の森林整備に取り組む「東芝グループ150万本の森づくり」です。ここ京都府でも、亀岡市東別院の桜峠でヤマザクラの植育林を行っています。

この「森づくり」活動を通じ、自然環境保護、生物多様性保全、水源涵養に資するとともに、自然を愛する「人づくり」を進め、未来(あした)の地球を支える子どもたちに、豊かな自然を届けたいと考えています。

## 京都モデルフォレスト活動としての取組

安威川の源流域として豊かな水を育む亀岡市東別院東掛の森林を中心に活動を開始。2008年協定締結以降、社員による植林や間伐作業体験や森林学習の講座を毎年開催し、今年も3月2日(土)にヒノキ750本の植林とバームクーヘン作りを楽しんだ。今後も引き続き森林整備活動を通じ地域に貢献していく予定です。



急斜面でのヒノキ植林



皆でバームクーヘン作りにトライ

## モデルフォレスト活動への想い(感想、課題)

日本の森林を取り巻く状況は一般にはあまりよく知られていないように思います。

世界的には過度の伐採により減少する森林面積を如何に保全回復するかが最大の課題ですが、日本はこの40年間で森林面積はほぼ横這いに推移しており、決して減少していません。では一体何が問題なのでしょうか。

日本では戦後木材需要が急速に拡大し、それに伴って輸入が自由化され、昭和30年代には90%以上あった日本の木材自給率は20%にまで減少し、林業は大きな打撃を受けました。その結果森林は荒廃が進み、同時に生物多様性保全、土砂災害防止、水源涵養といった森林の持つ公益的機能の低下が懸念される事態となりました。

森林の持つこれらの機能は、所有者や林業従事者にとどまらず、国家の貴重な財産であり、その低下は我々の生活を脅かす社会問題であると言えることができます。

本活動により一人でも多くの人にこの問題の存在と重要性を伝えていきたいと考えています。

CSR推進室  
社会貢献担当グループ長  
菅田 卓也

## 活動データ

### ◆企業・団体

名称 株式会社東芝  
所在地 〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1  
担当部署 CSR推進室

### ◆協定

締結年月日 2008年2月27日  
株式会社東芝、寺生産森林組合、亀岡市  
京都府、京都モデルフォレスト協会

### ◆活動フィールド

亀岡市東別院町東掛  
面積 68ha



看板の前での集合写真